

二〇二〇年度 入学 試験 問題

国語

注意

- 一、解答用紙には受験番号の記入欄が三か所ある。
  - 三か所とも正確、明瞭に記入すること。
- 二、解答用紙には氏名の記入欄が一か所ある。
  - 正確、明瞭に記入すること。
- 三、解答はすべて解答用紙の所定欄に記入すること。

解答用紙の裏面は使用してはならない。
- 四、文字の不明瞭なもの、判読困難なものは、無効とする。
- 五、問題紙の本文は十二頁ある。試験開始後、落丁・損傷がないか確認すること。
- 六、試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。

一 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

ランニングが空前のブームというのは、日本だけの話ではないようだ。健康志向の世の中だからか、世界中でランナーの数は着実に増えている。それに応じて、さまざまなレースが開催されるようになり、その種類も開催数も増加の一途をたどっている。しばらく前に東京行きの飛行機のなかで、フランスのポルドーで開かれるマラソンに参加してきたという、日本人のグループに会ったことがある。趣味で走っているにしては、ずいぶん遠くまで遠征するのだなあと感じて話を聞くと、土地に興味もあってのことだった。

ワインで有名な地方だから、コースも葡萄畑のなかを縫うように設定されているらしく、実に気分がいい。豊かな自然のなかを緩やかなアップダウンの丘がつづき、その向こうに教会の塔が姿を現し、ゆったりと流れる川面が目に入る。打ち上げのワインが旨かったというのも頷けるが、ただ走るだけでなく、土地や歴史とのかかわりもブームとなる要素のひとつなのかもしれないと思った。

だがオリンピックに有終の美を飾るマラソンをはじめ、名だたる世界大会をテレビで見ていると、都市環境こそがレースの本場なのだと実感する。東京でもニューヨークでも、ランナーが走るのは、超高層のオフィスビルがつくる谷間であり、ある意味ではそれがどこの都市であろうがあまり関係のない人工環境である。ランナーの身体も、アスファルト舗装をふくめた、都市の人工環境に適合する運動をとおして作られているだろう。

フランスの人類学者マルク・オジェは、こうした現代都市の環境を「非―場所」と呼んだ。高速道路やオフィスビル、もちろん空港などもそうだが、世界中どこでも似たり寄ったりの都市環境は、歴史的な個性をもった「場所」とは大きく違う。グロ―バリゼーションとともに風景を均一化してゆく、非個人的な空間だから、非―場所だと言うのだろう。客観的に見ればランニングの舞台となる今日の街道も、一種の非―場所になるのだろうか。

マラソンの起源となったギリシャの村マラトンから首都アテネまでの街道も、部分的には車の交通量が激しい道路になる。だがオリンピック開催後も多くのランナーが世界中から集まるという。たとえ二一世紀の自動車道でも、どこかに古代の街道を走

っている感覚が残るからだろう。

走り続けるうちに、人は地形と一体になる。地形に応じて身体の状態が変わり、視界からは少しずつ人工物が消えてゆく。土地を覆っている上っ面はどうでもよいように思えてくる。ランニングは非場所化した都市から、一時的にせよ本来の街道を取り戻す営為なのかもしれない。

よく晴れた日曜日、日本橋から船に乗る。幸い風がないので暖かく、水上を行くには絶好の日和である、と書けば江戸の話かと思われるかもしれないが、そうではない。都市に新しい「水上経験」を創出することを目的に活動をつづける、その名も「ボートビープルアソシエーション」が、日本橋のアートギャラリーとの共同企画で開いた、写真ワークショップに参加したのである。乗船する前はなんとなく隅田川の観光巡りを想像していたのだが、およそ二時間にわたるクルーズは予想とはまったく異なる、ほとんど未知の東京を開示するものだった。

「東海道五十三次」の出発点には二〇一一年四月に船着き場が設置され、東京スカイツリーを水上から眺めようという外国の観光客にも人気となっているが、わたしたちが辿ったのは逆に大手町周辺から神田川を経て、隅田川から品川をめざすというルートだった。撮影も楽しかったが、参加者全員、慣れ親しんでいる都市が見せる別の貌かたちに驚いたのだ。

理由はいくつもあるが、ひとつは水の流れが日常とは別の地図を描きだすことだろう。たとえば「神田島」という意外な呼び方を初めて聞いたが、確かに水路に囲まれているという意味では「島」である。湾岸に残る古い倉庫群には水運都市の歴史が垣間見える。道路地図からは見えない風景の記憶が、じわりと浮かびあがる。

もちろん浮世絵が描いたような、名所図会を期待してはいけない。水路に沿ってビルがびっしりと建ち並び、町と川とのあいだに高い壁をつくっている。ふだんなら殺風景と言うところだが、そこに独特の美しさを感じたのは、なぜだろう。ほとんどのビルは道路側が表玄関である。水辺は建物の裏側になるから、装飾も看板もほとんど見当たらない。ネオンや巨大スクリーンが施しているどぎつくやかま喧しい化粧とは無縁の、都市の静かな顔が淡々と続いてゆく。それぞれのビルの微妙な色彩が水に映る。それは消費世界の情報や記号が取り除かれた、建築の無垢とも言うべき光景で、わたしを感動させたのだった。

日本橋の周辺も含め、高速道路が暗い天井を作ってしまったているせいで、水辺の風景にわたしたちは無関心だが、ボートから眺めると東京にはまだまだ水運都市としての魅力が隠されていることがわかる。その魅力を引き出すには、「水上経験」に勝るものはない。数は少ないが、新たに船着き場が設置された建物にはどこか華やきがある。それが場所の価値を高めることにつながるかもしれない。

道路から数メートルに過ぎないのに、喧騒が遠く感じられる。町と人を水面に映しながら、船はゆく。水上経験は、風景にひとときの詩学を与えてくれるのである。

国道マラソンと暗渠めぐりには、共通点がある。どちらも都市景観としては、けして美しいわけではない。海沿いの道、箱根や隅田川の一部を除けば、むしろ殺風景な場所や無味乾燥なオフィスビルのほうが多い。だがそうした場所に人が集まるところに、都市インフラの面白さがある。たとえば東京で外国人観光客にもっとも人気のある場所のひとつに、渋谷の駅前交差点がある。アキハバラと並んで、Shibuya Crossing はいまや世界的に通じる地名である。国際会議のゲストとしてアメリカとイタリヤからスピーカーが来た際に、わたしも彼らの視点で渋谷のスクランブル交差点へ向かい、しばらく佇んでみた。

交差点はいつもと変わらぬ混雑で、よそ見をしていると人にぶつかりそうだ。センター街側に渡ったところで、交差点全体を見回してみる。一目で観光客とわかる人たちが、ビデオカメラやスマホで交差点を撮影している。「ハチ公」側から「109」をバックに記念撮影をしている一群がいる。横断歩道のど真ん中で立ち止まりカメラを回したり、交差点内を何もなく往復している姿さえ見える。繁華街を訪れているというよりは、確かに「交差点を見に来た」としかいえないような行動である。彼らは「スクランブル交差点を渡る群衆」を見に来ているのである。

日本の鉄道駅の利用者数は世界的に見て、桁違いの数字で知られている。乗降者数の世界ランキングでは、。特に新宿、池袋、渋谷、東京などの山手線の駅は常に上位にランクされ、これらの駅の一日平均の利用者数は、単位が百万人になる。複数の私鉄が乗り入れる新宿では三〇〇万を超えるというから、単純に数字だけからすれば、どんな観光地も及ばないだろう。

これらの駅では高度成長期には朝晩のラッシュアワーを体験するツアーさえあったという。いまもあるのかもしれないが、観光地としてはそれなりの系譜があるということになる。これはリニューアされた東京駅構内を見物するのはわけが違う、一種の「インフラ観光」である。

つまり半世紀たつても東京の混雑はあまりにひどい、ということでもあるのだが、昔と今とはそこに大きな変化が伴っている。スクランブル交差点の周囲を見渡すと、建物の上から撮影している人が目につく。井の頭線への通路や商業施設の上階にも、一眼レフカメラで撮影している姿が多い。比較的時間をかけて撮影しているのは、ほとんどみな動画で撮影しているからである。変化、というのはそこにある。

動画の多くは、インターネット上のさまざまなサイトに送られ、誰でも見られるように提供される。記録内容がシェアされることを前提として撮影する、記録する端からアップロードしてゆく、あるいは記録中のライブ映像として共有することもごく普通だろう。スマートフォンの爆発的な普及によつて出現した、パーソナルメディアの利用法である。話題になった映像は、瞬時に共有される数を増やしてゆき、瞬く間に世界中で閲覧されてゆく。その数は全体で、おそらく駅の利用者数に匹敵するような「群衆」をなしている。

不特定多数の群衆を不特定多数の群衆が見ている。前者は現実の空間に存在する群衆だが、後者のほうは現実には存在するがひとつの場所にいるわけではない。あくまでメディアをとおして、「地球上」という以外には特定しようのない空間に拡散している、匿名の観客だ。そのメディアの特徴をひとことで言うならば、前者と後者のあいだに差異がないという点につきるだろう。誰もが撮り、誰もが見る。ふたつの群衆は、実はひとつである。たとえばこの交差点で起きていることを、フィールドワークとしてとらえてみよう。この言葉が人類学や社会学で使われはじめたときには、何がフィールドでそれを誰が観察し記録するのは明らかだった。その自明性に疑問符がつきつけられ、観察する側とされる側との一方的な関係が批判されるにしたがつて、これらの科学では関係そのものが見直されることになったが、それは同時にメディアの変化を伴うものでもあった。

高度な機能を備えたパーソナルメディアが一般化した状況では、そう簡単に観察する側とされる側にわけることとはできない。

人はスクランブル交差点を渡っていればただの歩行者だが、その気になれば手元のスマホでこれを撮影し、まさに驚くべき群衆行動を記録し、これを公開することもできる。交差点の観光客がやっていることは、それである。言い換えれば、どんな場所でも「フィールド」になる。そんな状況が到来している。

フィールドは日本語で「野」、中国語では「田野」である。スクランブル交差点は情報メディアが複雑に絡まった状態の「野」に近い。そして高度に情報化した今日の都市は、すべての空間が、同様の「野」になる条件を備えていると言ったほうがいいだろう。それは既存の枠組みのなかには収まりきらないような、もっと広い「野」である。渋谷駅前の観光客たちが注視しているのが何なのかを考えると、ある程度納得がゆく。

わたしはスクランブル交差点に滞在しながら、手許のスマホで投稿された動画を検索してみた。いくつも見ただけで、なぜそこが観光客の人気スポットなのかが分かる。彼らは信号が青に変わった途端に四方から歩き出した歩行者が、衝突することなく渡りきるといふ光景に感嘆しているのだ。上方から眺めると一種のマスゲームのようにさえ見える。路面ぎりぎりにカメラを据えて、群衆の足元だけをとらえた映像には、一種の群舞を思わせるリズム感があるが、交差点の信号以外に、これといったディレクターはいない。一種のパフォーマンスと見ているのだろう。

それを人は自覚なきアートと呼ぶかもしれない。群衆による群衆の、群衆のためのアート。だがそれは東京の群衆にとっては日常的な、特に意識することもない現象である。むしろできれば避けたいと思っっている「非―場所」だ。そこに非日常的な何かを感じとり、それがいったいどのようなようにして可能になるのかをこの目で見たいと思ひ、カメラを向けた人々にとって、そこは特別な「場所」となるわけである。

(港千尋『風景論』)

## 設問

(一) 空欄  に入る語句として適当なものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- 1 他に信を問わない
- 2 他に範を示さない
- 3 他の追隨を許さない
- 4 他に口を挟ませない
- 5 他の理解が及ばない

(二) 傍線——A「ランニングは非―場所化した都市から、一時的にせよ本来の街道を取り戻す営為なのかもしれない」の説

明として適当なものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- 1 マラソンのコースが豊かな自然のなかに設定されることによって、人は歴史的な個性をもった「場所」を感じとれるようになる。

- 2 マラソンのコースは都市の人工環境に設定されることが多いので、人は均一化した都市の風景に古代の街道を見出そうとする。

- 3 走り続けるうちに多くのランナーの身体が都市の人工環境に適合し均一化することにより、歴史的な個性をもった「場所」を走っていると錯覚する。

- 4 走り続けるうちに地形に応じて身体の状態が変わり、自然環境のうえに成り立った人工環境の大切さを感じとれるようになる。

- 5 走り続けるうちに人と地形が一体となつてきて、非個人的な人工環境の覆いの下にある、土地の歴史的な個性を感じとれるようになる。

(三) 傍線——B「水上経験は、風景にひとときの詩学を与えてくれるのである」の説明として適当なものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- 1 穏やかな江戸時代の記憶が残る「東海道五十三次」の出发点から東京スカイツリーを眺めることによって、消費世界の情報や記号が取り除かれる。

- 2 乗船すると水の流れが日常とは別の地図を描きだして、江戸時代の浮世絵や名所図会に描かれたままの神田島の美しい風景を撮影できる。

- 3 ボートで水上を行くことで道路地図からは見えない風景の記憶が浮かびあがり、水運都市東京の歴史が引き出されて独特の美しさを感じさせる。
- 4 船から眺めると建物の殺風景な裏側に施された微妙な色彩が華やきはじめ、どぎつい装飾に満ちた表側に負けない別の貌に驚かされる。
- 5 町にクルーズを運航する川がある限り、高速道路が暗い天井を作ってしまったとしても、建築の無垢とも言うべき光景が失われることはない。

(四) 傍線——C「一種の「インフラ観光」の説明として適当なものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- 1 都市景観として決して美しいわけではない国道マラソンや暗渠めぐりや渋谷交差点に、外国人観光客が群衆のためのアートを見出したこと。
  - 2 無味乾燥なオフィスビルが建ち並びいつも混雑する駅前交差点やラッシュアワーの駅という、美しいわけではない都市景観が観光客の人気を集めること。
  - 3 朝晩のラッシュアワーを体験するツアーから暗渠めぐりへと外国人観光客の人氣が移ったように、東京の観光資源は都市の混雑から殺風景な場所へと変化したこと。
  - 4 インターネットの普及によつて急激に増大した外国人観光客が見に来るのは、群衆の衝突を避ける信号など高度な機械技術であること。
  - 5 観光客が駅の建築美を見物するため、世界的に見て桁違いの利用者が乗降する池袋、渋谷、東京などの山手線の駅に押し寄せたこと。
- (五) 本文の内容に合致するものを、次のうちから三つ選び、その番号を記せ。
- 1 ランニングが空前のブームになっており、筆者はフランスで開かれるマラソンに参加した日本人のグループに出会った。
  - 2 世界中でランナーの数が着実に増えていることと、世の中の健康志向との間に因果関係はない。



- 3 世界中からギリシャに集まるランナーは、皆、マラソンの起源を求めている。
  - 4 ボートピープルアソシエーションは、観光巡りと一線を画した新しい水上経験をめざしている。
  - 5 「ハチ公」や「109」は、外国人の視点から見出された新しい観光地である。
  - 6 新宿駅の利用者が一日三〇〇万を超えるという数字には、どんな観光地もかなわない。
  - 7 人は、失われた豊かな「野」や「田野」を手元のスマホで再現して、癒されている。
  - 8 ス克蘭ブル交差点で演じられるマ스ゲームの参加者は、ディレクターの存在に気づかない。
- (六) 傍線——について、筆者は「大きな変化」をどのように捉えているか、説明せよ(句読点とも四十字以内)。

(以上・九十点)

二 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

今は昔、大和の国の吉野の山に一つの山寺あり。海部の峰といふ。阿倍の天皇の御代に、一人の僧ありけり。かの山寺にとし  
ごる住す。清浄にして仏の道を行ふ。

しかる間に、この聖人身に病ありて、身疲れ力弱くして起き居ること思ひのごとくにあらず。また、飲食心になはずして命  
存しがたし。しかるに、聖人の思はく、「我身に病ありて道を修するにたへず。病を癒えしめて快く行はむ。ただし、病を癒え  
しむることは、伝へ聞く、肉食に過ぎたるはなかんなり。しかれば、我魚を食せむ。これ重き罪にあらず」と思ひて、ひそかに  
弟子に語りていはく、「我病あるによりて、魚を食して命を存せむと思ふ。汝魚を求めて我に食はしめよ」と。

弟子これを聞きて、たちまちに紀伊の国の海の辺に一人の童子を遣はして魚を買はしむ。童子かの浦に行きてあざやかなるな  
よし八隻を買ひ取りて、小さき櫃ひつに入れて帰り来る間、道にして、もとより童子を相知れる男三人会ひぬ。男童子に問ひては  
く、「汝が持ちたる物は、これ何物ぞ」と。童子これを聞きて、これ魚なりといはむことをすこぶる憚り思ひて、ただ口に任せ  
て、「これは法花経なり」と答ふ。しかるに、男見るに、この小さき櫃より汁垂りて臭き香あり。すでにこれ魚なり。しかれば、  
男のいはく、「それ経にあらず。まさしく魚なり」と。童、「なほ経なり」とあらそひて行き、具して行くに、一つの市の中に  
至りぬ。男等ここにやすんで、童を留めて責めていはく、「汝が持ちたる物は、なほ経にはあらず。まさしく魚なり」と。童は、  
「なほ魚にはあらず。経なり」といふ。男等これを疑ひて、「箱を開きて見む」といふ。童開かじとすれども、男等あながちに  
責めて開かしむ。童恥ぢ思ふことがきりなし。しかるに、箱の内を見れば、法花経八巻まします。男等これを見て、恐れ怪しん  
で去りぬ。童も奇異なりと思ひて、喜びて行く。

この男の中に一人ありて、なほこのことを怪しんで、「これを見あらはさむ」と思ひて、うかがひて童の後に立ちて行く。童  
すでに山寺に至りて、師に向かひてつぶさにこのことあり様を語る。師これを聞きて、一度は怪しび、一度は喜ぶ。「これひ  
とへに天の我を助けて守護し給へりけるなり」と知りぬ。その後、聖人すでにこの魚を食するに、このうかがひて来れる一人の  
男、山寺に至りてこれを見て、聖人に向かひて五体を地に投げて、聖人に申してまうさく、「まことにこれ魚のすがたなりとい

へども、聖人の食物とあるがゆるぎに化して経となれり。愚痴邪見にして因果を知らざるによりて、このことを疑ひて度々責め悩ましけり。願はくは聖人この過を許し給へ。これより後は、聖人をもつて我が大師としてねむごろに恭敬供養したてまつらむ」といひて、泣く泣く帰りぬ。その後は、この男聖人のために大檀越となりて、常に山寺に行きて心をいたして供養しけり。これ奇異のことなり。

これを思ふに、仏法を修行して身を助けむがためには、もろもろの毒を食ふといふとも返りて薬となる、もろもろの肉を食ふといふとも罪を犯すにあらざると知るべし。

しかれば、魚もたちまちに化して経となれるなり。ゆめゆめかくのごとくならむことを謗るべからずとなむ語り伝へたとや。

〔今昔物語集〕

注 なよし八隻 鱈ほろ八匹。

大檀越 多額の金品などを寺に寄進する有力な信者。

設問

(一) 傍線—— a・bの意味として適当なものを、次のうちからそれぞれ一つ選び、その番号を記せ。

a					b				
あざやかなる					すでに				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
高価な	上等な	活きがいい	味がいい	香りがいい	なんとなく	まぎれもなく	おそろく	まさか	かつて

(二) 傍線~~~~~「肉食に過ぎたるはなかななり」の解釈として適当なものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- 1 肉を食べ過ぎるのはよくないのだ
- 2 肉はいくら食べても食べ過ぎということはないそうだ
- 3 肉を食べ飽きることはないのだ
- 4 肉を食べることにまさるものはないそうだ
- 5 肉ほどおいしいものはないそうだ

(三) 傍線-----「これ重き罪にあらず」の説明として適当なものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- 1 本来、僧は戒律を犯してはならないが、今まで戒律を守って修行してきたので、今度だけは魚を食べても罪を軽くしてもらえると、聖人は思っている。
- 2 本来、僧は戒律を犯してはならないが、仏道に励んでいくために魚を食べるのだから、重い罪には当たらないと、聖人は考えている。
- 3 本来、僧は命あるものを食べてはならないが、山に住む動物の肉を食べるより魚を食べた方が重い罪にならないと、聖人は考えている。
- 4 本来、僧は命あるものを食べてはならないが、死んだ魚を買って食べるのであれば殺生戒を犯したことにならない分、軽い罪で済むと、聖人は思っている。
- 5 本来、僧は命あるものを食べてはならないが、魚を自分が買うのではなく弟子が買うのであれば、重い罪に問われないと、聖人は考えている。

(四) 傍線-----「泣く泣く帰りぬ」の説明として適当なものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- 1 男は、自らの愚かさを反省して聖人への尊敬の念をいだき、感激して山から帰った。
- 2 男は、童子に自らの行為を詫びて許してもらい、感動して山から帰った。

- 3 男は、聖人の法力のありがたさに心動かされ、自分の過ちを懺悔して山寺へ戻った。
- 4 男は、聖人に弟子入りして先祖の供養ができるようになり、歡喜して山寺へ戻った。
- 5 男は、仏の導きを感じたが、修行の仕方がわからず、悲嘆して山から帰った。

(五) 傍線——「開かじ」の「じ」と文法的意味・用法が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- 1 討ちたてまつらずとも、勝つべきいくさに負くこともよもあらじ
- 2 御文にも、おろかにもてなし思ふまじと、かへすがへす戒め給へり
- 3 いと恥づかしうなむとて、げにえたふまじく泣い給ふ
- 4 夜をこめて鳥のそらねははかるともよに逢坂の関はゆるさじ
- 5 さらば、ただ心にまかす。われらは詠めとも言はじ

(六) 本文の内容に合致するものを、次のうちから二つ選び、その番号を記せ。

- 1 聖人は、年を取ってから山寺で暮らすようになった。
- 2 聖人は、衰弱し満足に飲むことも食することもできなくなった。
- 3 聖人は、道に立って説法をしたいと言った。
- 4 弟子は、童子とともに魚を買いに行った。
- 5 童子は、魚を買った後で顔見知りの男たちに出くわした。
- 6 童子は、魚が腐り始めたので心配した。

(七) 傍線——「これひとへに天の我を助けて守護し給へりけるなり」とは、どのようなことに対して言っているのか、説明せよ（句読点とも三十字以内）。

(以上・六十点)